

2008年12月20日

北海道開発局長

鈴木 英一 様

天塩川魚類生息環境保全に関する専門家会議座長

辻井 達一 様

下川自然を考える会会長 千葉 永二
サンルダム建設を考える集い代表 渋谷 静男
名寄サンルダムを考える会代表 竹内 和郎
サンル川を守る会代表 橋本 泰子
ネットワーク旭川地球村代表 山城 えり子
北海道の森と川を語る会代表 小野 有五
大雪と石狩の自然を守る会代表 寺島 一男
旭川・森と川ネット21代表 平田 一三
NPO法人 渚滑川とトラウトを守る会 理事長 扇谷 勝
(社) 北海道自然保護協会会長 佐藤 謙

**声明：サンルダム本体工事着工の概算要求予算に抗議し、
予算執行を許さない運動を進めます**

「年度内に漁協の同意が得られなければ本体分の約1億円は保留する」という条件つきで、財務省が北海道開発局のサンルダム本体工事概算要求を認めたとの報道がなされました。私たちは、開発局の説明責任が果たされていない中で財務省がこの概算要求を認めたことに対して強く抗議します。

ダム賛成は流域住民のわずか7%

財務省は、開発局が私たちに十分説明責任を果たしていないことに難色を示しながらも、天塩川流域自治体の長がサンルダム建設を要望していることを重く見て予算要求を条件つきながら認めたものと考えられます。私たちは、開発局が1998年に流域住民5000人に対して実施したアンケートで、ダムが必要と回答した人はわずか7%であったことを重く見るべきだと考えています。このアンケート結果では、昭和50年代以降に営々として行われてきた開発局による天塩川水系河川整備の成果を住民が評価し、安全性を認めた数字でもあります。しかしながら開発局は住民のその高い評価を無視した形で強引に建設を進めようとしています。

流域委員会の委員長・副委員長などおよび魚類専門家会議の約8割が開発局関係者

開発局は、旭川開発建設部出身で北大に移っても開発局と深く結びついた人を天塩川流域委員会の委員長にし、副委員長や治水専門家も同様に開発局と縁の深い人で固めました。流域委員会委員長は、私たちとの話し合いを最初から最後まで拒否したのもそのような経歴にあると、私たちは考えます。サクラマス資源の保全を検討する魚類専門家会議にいたっては、8名の委員のうち7名までが開発局と関連のある人であることが最近明らかにされました。これらの委員が開発局との結びつきを明らかにする肩書きを避けたのも、後ろめたさの表れと考えられます。

天塩川のより良い環境を求めた話し合いを！

流域委員会だけでなく、魚類専門家会議も私たちとの話し合いを拒否しました。自信があるのなら、よりよい河川環境をめざして堂々と話し合いをすべきではないでしょうか。このように、私たちとの話し合いを拒否しているのは、開発局自身が私たちとの話し合いを一貫して拒否していることと関係していると考えています。

私たちは、サンルダム建設による長所（治水と利水）と短所（環境破壊）を十分検討して、よりよい天塩川をめざそうとしています。これは、流域委員会の任務でありましたが、残念ながら委員構成に偏りがあることも関係して、ようやく議論がかみ合ってきたとたんに流域委員会は閉じられ、任務をまっとうできませんでした。不十分なままでダム建設を強行することは、必ずや将来に禍根を残します。今回財務省は漁協との同意を予算執行の条件としましたが、貴重なサクラマス資源の保全のために当然のことです。さらに、広く天塩川流域住民の声も重視すべきです。とるべき道は、徹底的に話し合い、検討して、多くの人たちが納得して進めることです。私たちは引き続き開発局に話し合いを求め、流域住民や広く道民の合意を得た河川整備計画の作成をめざし、まずはダム本体着工予算の執行に反対します。